

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅰ 3章14～17節>

「私たちは神の建物」(9節)。その恵みをさらにパウロは語る。

①恵み1 キリストを土台とした人生を築ける！

「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません」(11)。イエス様も、人生を家に例えて土台の大切さを話されました(マタイ7:24以下)。そして、そのイエス・キリストが真の土台なのです。本当にキリストの恵みを知ったなら、他の土台の上に人生を築こうとは思わなくなるのです(フィリピ3:8)。そして、どんな人でもこのキリストを土台とした人生を築けるのです。神様が全ての人に用意して下さった恵みです！

②恵み2 人生に成果は残せなくても、私たち自身は救われる！

普通、人は生きた証しとして、人生に成果を残そうと努力します。信仰者も神様が望まれているように真剣に生きようとします。しかし、成果を残さなければならぬものではありません。残せなくてもいいのです。なぜなら、何も残せなくても、「火の中をくぐりぬけて来た者のように、救われる」(15)からです。このことも、キリストを土台にして生きる人生に用意されている大きな恵みです。

③恵み3 神の霊が私たちに内住して下さる！

パウロは、「神の霊が自分たちの中に住んでいる」(16)と語り、だからこそ私たちは尊い存在なのだと言っています。新しい私たち自身の見方ではないでしょうか！ 私たちが自分を大切にしなければならぬ本当の理由です。神様が与えて下さったイエス・キリストを見上げてその教えに従って生きる時に、霊なる神様は私たちに内住して下さるのです。神様と共に生きられる恵みです。

④恵み4 「あなたがたは(複数形)」の意味。大きな恵み、教会！

パウロがキリストに土台を据えて生きるようにと語る時、彼はいつも教会をみんなで建てることを考えています(9)。私一人で生きるのではなく皆で生きる教会が与えられている！ 大きな恵みです。